

相談・地域連携担当から

書籍・刊行物の紹介

川崎市の「豊かな地域療育を考える連絡会」より、『障がい児の子育て支援ハンドブック-改訂版-』（税込¥500）が発行されました。

川崎市の制度変更や障がい児を取り巻く様々な環境の変化に対応し、より適切な「相談」や「支援」につながるための情報が掲載されています。

詳しいご案内につきましては、「豊かな地域療育を考える連絡会」のホームページをご覧ください。

（URL: <https://ryoiku2019.jimdofree.com/>）



◆麻生養護学校教職員で購入を希望する方は、相談・地域連携係にお声がけください。

◆ご紹介する刊行物は、麻生養護学校1階の図書コーナーにて配架予定です。

図書コーナーには他にも川崎市、横浜市など各地域の福祉に関する書籍・刊行物があります。ご来校の際にぜひご覧ください。

夏の学習会

「応用行動分析による『気になる行動』の理解と支援」

7月下旬、横浜国立大学大学院 教育学研究科 高度教職実践専攻 教授 ^{わたなべ}渡部 ^{まさたか}匡隆先生をお招きして、御講演を頂きました。気になる行動には必ずストーリーや背景があり、そこをどう分析すると次の支援に繋がるのか、という内容を、様々な事例を交えながら分かりやすくお話して下さいました。児童・生徒が抱える困り感の根源に気付けるよう、2学期から活用していきたいと思えます。

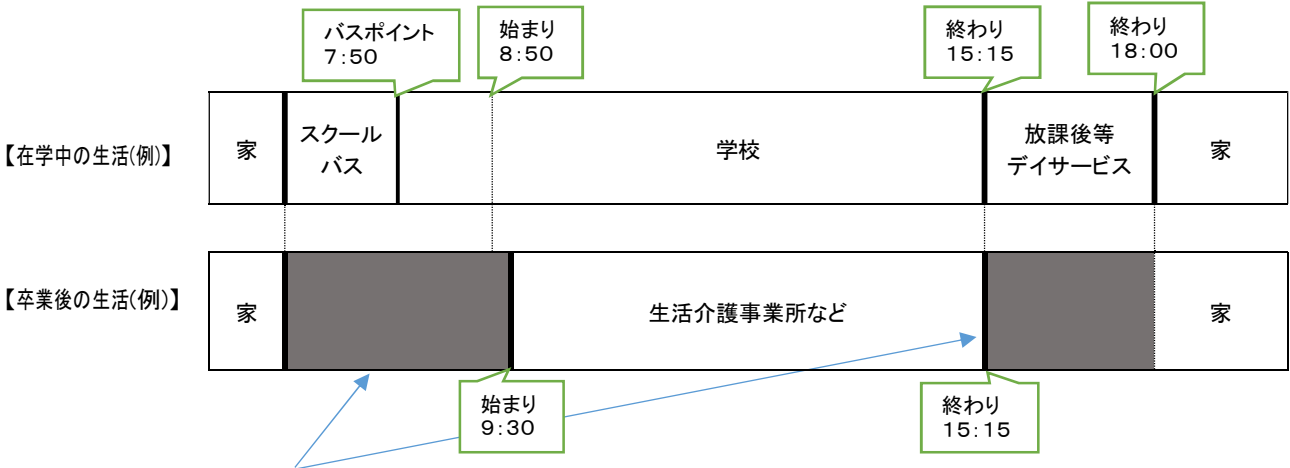


移行支援(進路)担当から

今月は卒業後の暮らしについてお伝えします。

現在、児童・生徒の放課後支援は、放課後等デイサービス事業によって 18 時前後まで行われています。最近では毎日利用している児童・生徒も多くなってきていると感じます。それが、高等部を卒業し、生活介護施設などに通うようになると、放課後等デイサービスは利用できなくなり、15 時 30 分頃に帰宅するようになります。

次の図はおおよそですが、このようにイメージしていただくとわかりやすいかと思います。



卒業後に、この網掛けの時間をどうしていくか、検討することも必要になっていきます。

現状として卒業後に通う地域の事業所の送迎サービスは、現在利用されている方でいっぱい状態が多く、新規の方の送迎利用はかなり難しい状況です。特に車いす乗車は台数が限られているため、座席利用の方よりも厳しくなります。送迎車を利用できない場合は、保護者送迎またはヘルパー送迎や移動支援等を利用することになります。しかし、ヘルパーは利用希望時間帯が皆同じなので、すぐに見つけれないと聞きます。

そのため、在学中から卒業後もお願いできそうな移動支援を使ったり、自力通所できるように練習したりすることがスムーズな移行につながります。

事業所が終わった後に、日中一時支援などを利用したり、ヘルパーさんと一緒にゆっくり帰ったりしている方もいらっしゃいますが、川崎市と横浜市では事業所の数や利用可能な日数に違いがあります。

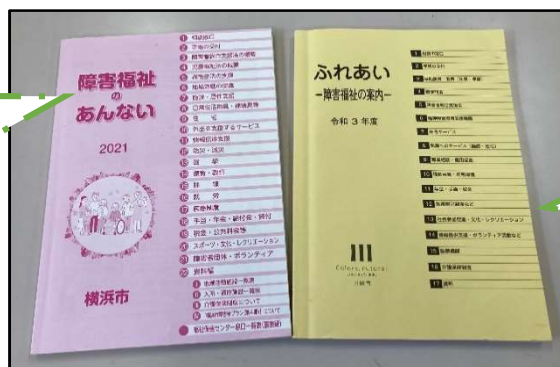
上記のような、網掛けの時間に困り感が予想される方は、在学中に、卒業後にかけて利用できる移動支援等がないか、ケースワーカーに相談しましょう。計画相談に入ってもらい、在学中から必要なサービスを利用していくのも良いかと思います。

お子様が学校に通っている時は、何とかお仕事を続けられたにもかかわらず、卒業後、仕事を辞めざるを得ない、仕事を変えるしかない、介護負担が増えるといった状況にならないよう、今のうちから情報収集することが大切です。

こちらを参考にしてください ※区役所でもらえます。

横浜

『障害福祉のあんない』
2021
・移動情報サービスP48
・計画相談P3



川崎

『ふれあい -障害福祉の案内-』
令和3年度
・移動情報サービスP53
・計画相談P161~

